

2019年2月15日(金) ハコラク3月号 掲載

医療の現場から『知っていますか？インフルエンザの検査を鼻でするワケ』

検査科 野澤 祐輔 主任検査技師

医療の
現場から

知っていますか？ インフルエンザの検査を 鼻でするワケ



函館中央病院

検査科
主任臨床検査技師

野澤 祐輔さん

毎年流行するインフルエンザ。ニュースで子どもが鼻に綿棒を入れられ泣いている映像は皆さんご覧になったことがあるでしょうし、実際に検査を受けて痛い思いをした方も多いと思います。

なぜ痛い思いをしてまで、鼻で検査をするのでしょうか？

インフルエンザの検査は、粘膜を採取してウイルスに感染しているかどうかを調べます。そして、インフルエンザウイルスは鼻から喉にかけての上気道と呼ばれる部分の粘膜に存在し、特に鼻の奥の粘膜に多く存在するからです。喉の粘膜でも検査は可能ですが、鼻の奥から採取すると比べると検出率は低くなってしまう。

まいます。より正しい検査結果を得るために鼻で検査をすることが多いのです。

検査は抗原抗体反応を利用した「イムノクロマトグラフィー法」と呼ばれ、インフルエンザウイルス（抗原）を色の付いたタンパク質（抗体）と反応させて、目には見えないウイルスの有無を色調として判定できるようになっていきます。この検査には特別な機械は必要なく、手軽で30分以内の結果が分かることから、多くの医療機関で採用されています。

ただし、感染していても症状が出る前や発症12時間以内でウイルス量が少ない時期に検査をした場合には、結果が陽性にならないことがあります。検査の結果が陰性だったのに、翌日もう一度来てくださーいと言われることがあるのはこのためです。

インフルエンザ感染症の症状や予防法・薬については情報を得る機会があるでしょうが「なぜ鼻に綿棒？」という疑問をお持ちの方も多いと思います。検査の一例をご紹介します。

私たち臨床検査技師はこのような感染症に関わる検査にも日夜取り組んで臨床支援をしています。



函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代) <http://www.chubyo.com/>

- 診療科目／内科、消化器内科、腫瘍内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全24科目
- 受付時間／8:30~11:30、13:30~16:00※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。
- 休日／日曜・祝日・年末年始